

## 第7回市史講座ミニレポート：平成28年10月22日（土）

「写真でたどる松江城とその周辺」

講師：和田嘉宥先生（米子工業高等専門学校名誉教授）・伊藤孝一先生（松江城部会専門委員）



『松江市史』別編「松江城」（平成29年度刊行予定）には、松江城の写真が多く掲載される予定です。それを踏まえ、今回の講座では伊藤先生が収集された松江城及びその周辺の写真を紹介していただきました。

伊藤先生はまず「明治時代の松江城」と題し、明治初期に撮影された最古の松江城の写真について説明されました。明治8年以前の松江城写真は数えるほどしか残されていません。その中から、大手前から松江城を臨んだ写真を取り上げ、解体状況を手がかりとした撮影順序について説明されました。

つぎに、明治27年の天守閣修理前と明治40年代の写真の比較から、明治27年の大修理時に天守閣の景観が変わった事を指摘され、写真の年代比定を行う際の手がかりとなることを説明されました。また、明治期の城山の公園化の様子や、展示会場として城内が利用されていたことも取り上げられました。

つぎに和田先生により「松江城天守昭和の修理」と題して、昭和25から30年の松江城天守の大修理について解説されました。修理の計画は戦争により一旦中止になりましたが、その後大修理が実施されました。先生には天守修理前の破損状況と解体修理時の天守内部の木組みの様子などを解説していただきました。

再び伊藤先生により、明治・大正期と現在の比較についてお話して頂きました。最初に「天守からの眺望」と題し、明治末期と現在の天守閣から見た風景について、そして「床几山からの眺望」として市の南側から見た風景について説明されました。

また「松江城と松江市民」では、市民と松江城・松江大橋・堀川の様子を見せていただき、過去と現在の風景を比べ、何を残すべきか考えてみることを提案されました。最後に、写真技術が伝わってから150年が過ぎましたが、まだ多くの写真が眠っており、資料は身近な場所にある、と締めくくられました。